

(6) 小児がん

【現状と課題】

がんは小児の病死原因の第1位であり、成人のがんと異なり生活習慣と関係なく、乳幼児期から思春期、若年成人まで幅広い年齢に発症し、希少で多種多様ながん種からなります。また、患者数が少ないため、小児がんを扱う施設が全国でも約200程度と限られています。

小児は成長発達段階にあることもあり様々な問題が生ずるため、医療だけでなく様々な支援が長期に必要とされていますが、十分な状況ではありません。

【取組の方向性】

今後5年間をめどに、整備が進められる予定の「小児がん拠点病院」と小児医療施設との連携を進め、小児がん患者と家族が安心して適切な医療や支援が受けられるような環境整備を目指します。

【個別目標】

- 小児がんの医療連携体制を整備する（10年以内）

(7) がんの教育・普及啓発

【現状と課題】

健康については子どもの頃から教育することが重要であり、学校でも健康の保持増進と疾病の予防といった観点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組まれています。その他、本県では、NPO法人が専門家の協力を得て、がん予防に関して学校への出前健康教育を実施するとともに、がん検診メッセージカードを作成し、生徒から保護者へのがん検診受診の呼びかけを行っており、県医師会による防煙教育等も実施されています。

また、徳島がん対策センターでは、無料の出前健康教育や新聞への定期的なコラムの掲載により各がんの予防等について啓発を行っており、県においても、「がん情報BOOK」を作成するなど、がんの知識について普及啓発に努めています。今後も県民に広く知識が行きわたるよう、様々な方法で取り組んでいく必要があります。

【取組の方向性】

学校の児童生徒に対するがん予防に関する健康教育については、引き続き、教育、民間団体等と連携・協力しながら進めていきます。

県民に対しては、市町村、がん対策センター、医師会等関係団体、拠点病院等医療機関、マスメディア等の協力を得ながら、普及啓発を図っていきます。

患者とその家族に対しても、拠点病院等の相談支援センター、がん対策センター、がん患者団体等による相談支援・情報提供活動を進めていきます。

【個別目標】

- がんを含めた出前健康教育の実施校を増やす（5年以内）